

目指す学校像	美園小の新たな伝統を築き上げ 美園の地に信頼を土台とした子ども一人ひとりが輝ける学校
--------	--

重点目標	1 主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)を実現する授業改善を通し、これからの時代に求められる資質・能力を育成する 2 安心・安全な教育環境を整備し、人間性豊かな子どもたちを育てる 3 地域とともにある学校づくりを推進する 4 教職員の資質向上を図り、持続可能な教育活動を実践する組織づくりを行う
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日 令和7年2月5日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【学力向上に関する取組】 (現状) ○R5の6年生の全国学テにおいて、国語・算数は全国や市の平均とほぼ同程度である。 ○市学調で、現4～6年は各教科ともに「授業が分かる」が市の平均と比べて良好である。 ○学校評価の「分かりやすい学習指導」の項目で、保護者・児童ともに肯定的な回答が94%である。 (課題) ○市学調では、現4～6年は各教科ともに市平均程度であり個人差がある。また、「読書好き」の肯定的回答が全学年市平均より低い。 ○研究指定の発表を終えたが、「勉強が好き」「発表したい」の割合が伸びなかった。	・ICT環境を最大限に活用した学びの充実 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	1 学校課題研修を中心に、ICT環境を最大限に活用した主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行う。 2 エバンジェリストを中心に、SSDBの毎日の利用と効果的な活用の研究を行う。 3 管理職の授業観察や、指導主事による指導訪問等によって授業改善を実施する。	1 児童の家庭学習において、授業の発展・補充を図った内容をICTの活用で行うことができたか。 2 教師がICTを活用することで、授業改善や業務改善を図ることができたか。 3 エバンジェリストを核にして、タブレット活用研修を実施したか。	1 タブレットの持ち帰りによって、平日だけでなく休業中も活用した。 2 毎日のスクールダッシュボードの活用だけでなく、授業の中で意見の表出や振り返りなどでほぼ毎日活用した。 3 スクールダッシュボードの活用研修で指導主事を招聘して実施した。	B	○研修指定校2年目及びリーディングDXスクール認定校(申請中)としての実践の積み上げ ○スクールダッシュボードの効果的な利活用 ○ICTを活用し、思考力・判断力・表現力等の指導の充実	○タブレットの使用の増加により、文字を書く力が低下することが懸念される。 ○タブレットの使用はどの子ども慣れてきている。日々の積み重ね・経験が生きている。 ○人前で発表する機会が増えてよい。一方で、まだ意欲的に発表できない児童もいる。例えば、手本となる外部講師を招聘したり、児童から意見を聞いてみたりするのによいのではないか。
			1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、講師を招聘した講演や提案授業(1学期)や、校内授業研究(2学期)を実施する。 2 教科担任制を5・6年生で、通年実施する。 3 全国学テの振り返り(6月)と、学力向上カウンセリング(10月)の実施を通して授業改善を行う。	1 全国学テにおいて、国語、算数が、R5の市平均以上を維持できたか。 2 学校評価保護者アンケート「探究学習」で肯定的回答が前年(88%)より向上。 3 学校評価児童アンケート「新たな学び」で肯定的回答が前年(90%)より向上。 4 市学調「問題解決学習」で肯定的回答が高学年市平均以上(R5:2/2)	1 全国学テにおいて、国語、算数はが、市平均以上を維持できた。 2 保護者アンケート「探究学習」で肯定的回答が前年より低い(82%)。 3 児童アンケート「新たな学び」で肯定的回答が前年より低い(87%)。 4 「問題解決学習」は市平均以上(2/2)		○5・6年生の教科担任制の実施 ○学習過程や学習ルール等の全学年の指導の統一 ○研修意欲を高める指導内容及び指導者の派遣要請 ○「かわり」を重視したカリキュラムマネジメントの充実 ○朝学習への哲学対話の導入	
2	【安心・安全に関する取組】 (現状) ○いじめは毎年起きており、担任や組織で対応しているが、見守りを継続している事案もある。 ○長期欠席者が多くおり、関係機関と連携したり担任や学年、学校全体で対応したりしている。 ○心と生活のアンケート等を実施し、児童の悩みの把握に努めている。 ○学校評価の「いじめ」「生徒指導」「登下校」の保護者の肯定的回答が80～85%である。 (課題) ○保護者等との教育相談を積極的効果的に行う。 ○いじめの認知を積極的に行い、早期対応する。 ○事故等が発生した際に迅速・適切に対応する。	・安全で安心できる快適な教育環境の整備 ・家庭や地域、関係機関と連携した組織的な対応	1 交通事故や食物アレルギー事故の未然防止のため、日々の生活指導と計画的な安全教育を実施する。 2 事故発生時に適切な対応を行うために、校務分掌を生かして計画的な研修を実施する。 3 登下校時の安全指導を計画的に実施する。 4 学年園や花壇を活用して、潤いある教育環境を整備する。	1 学校評価教職員アンケート「備品整備」で肯定的回答が前年(95%)より向上。 2 学校評価保護者アンケート「環境整備」で肯定的回答が前年(96%)より向上。 3 学年園等を活用して、栽培活動を実施できたか。 4 学校評価児童アンケート「楽しく登校」で肯定的回答が前年(88%)より向上	1 教職員アンケート「施設整備の安全」で肯定的回答が前年(95%)より向上(100%)。 2 保護者アンケート「施設整備の安全」で肯定的回答が前年より向上(97%)。 3 ヨーロッパ野菜等を育てた。 4 児童アンケート「楽しく登校」で肯定的回答が前年(88%)より低い(84%)。	B	○交通事故防止のための安全教育と施設等の点検の充実 ○水の事故防止のための着衣泳の実施 ○熱中症やアレルギー事故等を想定した訓練の実施 ○いじめ見逃し0 ○校地内の除草、及び校舎内の廊下のワックスやトイレの洗浄の実施	○登下校時で児童間のトラブルがある。そのまま校内でも影響があるのではないかと、また、保護者が他人事に感じている場合もある。 ○スクールダッシュボードを活用(おはようメーター・あすなろメーター)した管理職・担任・養護の連携した児童への声掛けや見守りの実施が素晴らしい。 ○配布物のデジタル化は、保護者も教職員も様々な手間が省けてよい。
			1 心と生活のアンケート等(毎学期)の結果を受け、迅速な面談と記録を実施する。 2 日常の事件・事故の報告・連絡・相談・確認と、緊急時の組織的な対応を行う。 3 道徳教育の実施と道徳の授業公開を行う。 4 定期的な教育相談だけでなく随時実施する。	1 心と生活のアンケートの設問3に該当する児童に、即日面談を実施したか。 2 市学調で「楽しい学校」の肯定的回答が全学年市平均以上(R5:3/6)。 3 学校評価保護者アンケート「仲良く生活」で、肯定的回答が前年(93%)より向上。	1 保護者アンケート「地域と連携」で肯定的回答が前年と同程度(94%)。 2 保護者アンケート「家庭と連携」で肯定的回答が前年より向上(94%)。 3 地域美化活動やMISOフェスに児童や教職員が参加したか。		○心と生活のアンケート、スクールダッシュボード・おはようメーターの着実な実施と迅速・丁寧な対応 ○生徒指導等案件の確実な記録と保存 ○児童が教職員に相談しやすい関係づくり ○スクリレの導入	
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○小・中一体型の学校運営協議会が機能し、連携・協働の取組が実施できている。 ○地域の活動や行事等が徐々にコロナ前の内容等で実施できるようになっている。 (課題) ○学校教育の充実や地域との連携強化のため、施設設備の有効活用を図る。 ○学校運営協議会とSSNとの連携により、児童の健全育成に関わる活動を検討、実施する。 ○市学調の「地域行事への参加」の肯定的回答が全学年市平均より低い。	・学校運営協議会とSSN等との連携・協働 ・地域や関係諸機関と連携した教育活動の実施	1 学校・家庭・地域が連携・協働する美化活動等を実施する。 2 学校運営協議会の定期的開催と、様々な行事等での協議会委員の参加機会を設ける。 3 PTAや地域主催行事への児童、教職員の参加を促す。	1 学校評価保護者アンケート「地域と連携」で肯定的回答が前年(94%)より向上。 2 学校評価保護者アンケート「家庭と連携」で肯定的回答が前年(91%)より向上。 3 PTAや地域主催行事に児童や教職員が参加したか。	1 保護者アンケート「地域と連携」で肯定的回答が前年と同程度(94%)。 2 保護者アンケート「家庭と連携」で肯定的回答が前年より向上(94%)。 3 地域美化活動やMISOフェスに児童や教職員が参加した。	B	○学校運営協議会への児童の参加 ○学校・家庭・地域が連携した美化活動、挨拶運動の実施 ○PTA、地域行事の教職員への周知と参加の促進 ○「おかげさま」の周知	○地域美化活動は、多くの児童が参加していてよかった。 ○小学生が自治会に参加するのはハードルが高いため、今回のような内容で十分であった。 ○地域の方にも学校に来やすい環境になり、風通しがよくなった。
			1 家庭・地域の方々とのお会食を実施する。 2 地域のヒト、モノ、コトを活用した教育活動を実施する。 3 保・幼連携・小・中一貫を検討する機会の設置と協議を実施する。 4 SC、SSW、市教委、支援課、児相、相談室、警察等と連携する。	1 給食試食会と地域の方々とのお会食を実施できたか。 2 地域のヒト、モノ、コトを活用した教育活動を実施できたか。 3 市学調の「地域の見守り」の肯定的回答が、全学年市平均以上(R5:4/6)。 3 「地域見守り」は市平均以上(6/6)	1 給食試食会2回と地域の方々とのお会食3回を実施した。 2 今年度新たに農家の方を招いて野菜の栽培を学んだり、人権について教育者の講話を行ったり、未就学児との交流を行ったりした。 3 「地域見守り」は市平均以上(6/6)		○地域の農家と連携した農業(栽培)体験の実施 ○保・幼連携、小・中一貫の充実 ○様々な関係機関(SC、SSW、市教委、支援課、児相、相談室、民生児童委員、警察等)との連携 ○年3回以上の交流給食の実施	
4	【教職員の資質向上に関する取組】 (現状) ○市の研究委嘱の発表を終え、学校全体で学校課題に即した研究を行う下地ができている。 ○R5の月平均45時間以上の在校時間勤務をしていた者は各月平均2割程度いた。 ○教職員の研修意識は高い。 (課題) ○きまり等を共有化・日常化し、指導の一貫性と指導力向上を図る。 ○初任者、臨任者等の経験が少ない教員の指導力を育成する。 ○学校全体で業務改善と業務の平準化を進める。	・教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上 ・「やりがい」「働きがい」を高める働き方改革の推進	1 キャリア段階に応じた受講奨励を当初面談や中間面談等で行う。 2 教職員一人ひとりの専門性を高めるための高学年教科担任制を実施する。 3 管理職による毎日の教室巡回の実施と、年1回以上の授業観察及びFBを実施する。	1 学校自己評価教員の「授業改善」で、肯定的評価(100%)を維持できたか。 2 管理職による毎日の教室巡回と、年1回以上の授業観察及びフィードバックを実施したか。 3 当初面談等で研修奨励を実施したか。	1 教員の「授業改善」で、肯定的評価が前年より低い(98%)。 2 管理職による教室巡回をほぼ毎日、年1回以上の授業観察及びフィードバックを9割実施。 3 中間面談と研修履歴表活用を行う。	B	○メンター・メンティー制やコーチング理論の周知と実践 ○中間面談の実施と研修履歴表の作成、及びそれぞれにおける評価の実施 ○管理職による教室巡回とフィードバック、授業観察の実施	○学校公開で見る先生方は、子どもたちの意見を聞いたり尊重したりし、子どもの手本となる行動がよく見られた。 ○校長先生をはじめ、多くの先生方が学校をよくしているという意識と姿勢がみられる。 ○働き方改革推進の取組(面談やチャームでの意識改革、職員間のコミュニケーション・声掛け、「おたがいさま」の周知、時間割や行事の熟考等)が素晴らしい。 ○先生方の働き方改革が進むよう、地域や保護者を巻き込むようなものが何か見いだせるとよいのではないか。
			1 全教職員で教育環境と教育活動の見直しと改善を通年行う。 2 教職員自身の出退勤時刻の把握と、管理職の指導助言を実施する。 3 効果を高め効率化を進めるための、校務支援システムを活用する。 4 各学年主任・副主任体制を実施する。	1 ストレスチェックの「総合健康リスク」が市の前年平均(84)より低位。 2 人事異動調査書の仕事量の否定的回答の減少(R5:52%)。 3 人事異動調査書の職場環境満足度の肯定的回答の向上(R5:76%)。 4 人事異動調査書の満足度の肯定的回答の向上(R5:73%)。	1 「総合健康リスク」が市の平均より低位(男性54、女性70)。 2 仕事量の否定的回答が大幅減少(43%)。 3 職場環境満足度の肯定的回答が大幅向上(100%)。 4 満足度の肯定的回答が大幅向上(97%)。		○年間行事や日課表、調整時間等を見直して、ゆとりある勤務体制にする。 ○「おたがいさま」の周知 ○テレワーク(在宅勤務)の推奨 ○適材適所及び業務の平準化による時間外在校等時間の縮減 ○Teamsや校務支援システム、生成AI等を活用した業務の効率化の実施	